

大地震発生!

あなたは自分の命を自分で守れますか?

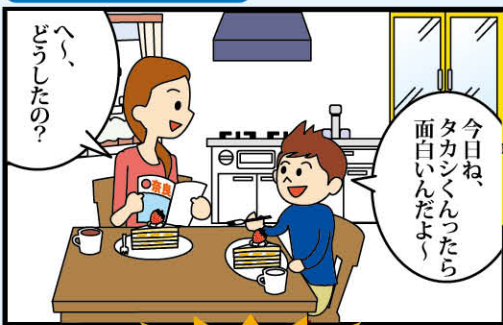
この県民だより奈良を読んでいる、今、この瞬間、大地震が発生したら、あなたはどうしますか? どう行動すれば、少しでも自分の身体・生命を守ることができるかを知っていますか?

東日本大震災から2年を迎える今、近い将来、確実にやってくるといわれている大地震が発生したときに、一人でも多くの命が助かるよう、どう行動するか、今のうちに何をしておくべきか。マンガの登場人物になったつもりで考えてみてください。

昨年12月に政府の地震調査委員会が公表した「全国地震動予測地図」によると、奈良市(市役所付近)では、約70%の確率で、30年以内に震度6弱以上の地震が発生するとされています。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などで亡くなられた方もみんな、その瞬間まで普段通りの生活を送っていました。大地震は突然やってくるのです。

地震発生前



大地震発生!



緊急地震速報が聞こえたら、すぐに身を守りましょう!

緊急地震速報です!

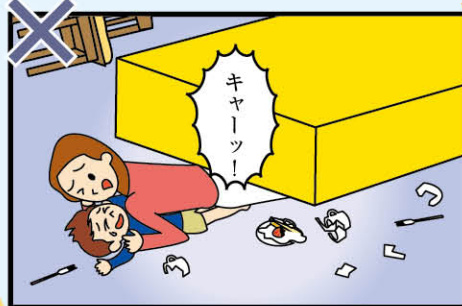
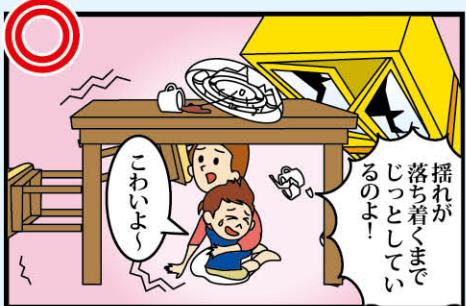


震度5弱以上の地震の発生が予測された場合、発生の数秒~数十秒前に、テレビやラジオなどで緊急地震速報が流れます。速報を聞いた場合は、机の下に入るなど、すぐに自分の身を守りましょう!

※震源に近い地域では、速報が間に合わないことがあります。
※予想震度の誤差などにより、速報が遅れたり、発表できない場合があります。

阪神・淡路大震災による神戸市中央区の被災状況

地震発生直後

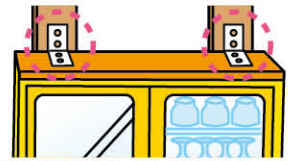


あわてて逃げない!

- 激しい揺れは最初の1分。まずは丈夫な机の下などで身を守ろう!
※東日本大震災のときなど、津波の心配があるときは急いで逃げるの必要がありますが、奈良県では、土砂崩れが予想される場合以外は、逃げるよりも身を守ることを優先してください。
- 身の安全を優先して、使っていた火を無理に止めようとしない!

家具や大型家電は固定しよう!

家具などが倒れないように固定していれば、下敷きになることは少なくなります。



住まいの耐震性が非常に重要です!



阪神・淡路大震災による人的被害の原因の多くが、老朽家屋の倒壊といわれています。倒壊家屋は避難道路を閉ざすおそれもあります。

- ①耐震診断
少なくとも、住宅の耐震基準が大きく変わった昭和56年以前に建てられた住宅については、耐震診断を受けよう!
- ②耐震改修
診断に応じた補強を行おう!

1~2分後



落ち着いて行動しよう!

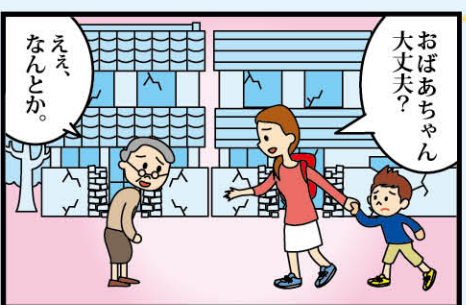
- 家族の安全を確認したら、部屋の中でも靴を履こう!
- 火元を確認し、もし消せそうな火が出たら、消しておこう!



外へ出よう!

激しい揺れがおさまったら、家屋倒壊のおそれもあるので、ひとまず外へ避難しよう!

3分後

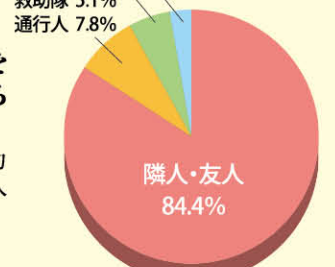


隣近所の安全を確認!

- 高齢者のみの世帯には積極的に声をかけ、安否を確認しよう! 火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火しよう。
※阪神・淡路大震災では、救出された人のうち、自力や家族による救出を除けば、実に約85%が隣人などによる救出であったといわれています。
- 余震に注意しよう! 大きな地震の後には余震が発生します。

生き埋めや閉じ込められた際の救助

(自力や家族による救出を除いた場合)



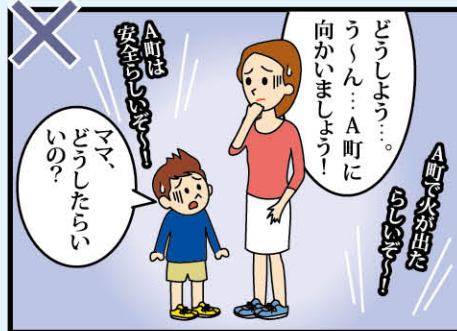
(出典: (社)日本防災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」を一部変更)

5分後



家族の安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)を使おう!

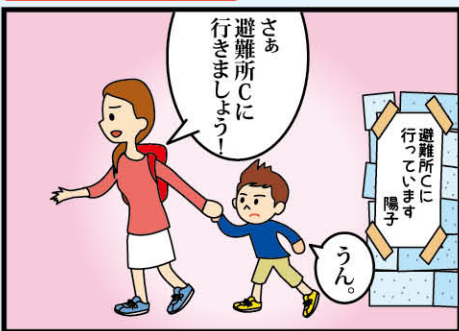
- 使い方 ① 伝言の録音 ② 伝言の再生
- ※171を押した後は音声案内に従ってください。



ラジオなどで情報を確認!

- 災害時には、間違った情報が飛び交います。テレビやラジオで正しい情報を確かめて行動しよう!
- ブロック塀や自動販売機は倒壊しやすいので、広い道を通って避難しよう。

5~10分後



行き先を書いたメモを残そう!

- 自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残そう!
- ※避難のときの「場所」「方法」「ルート」を普段から確認しておこう!
- 出火防止のため、ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とそう!

知事から

ひとこと

昨年8月に内閣府が発表した、南海トラフ巨大地震の被害想定によると、最悪の場合、全国で約32万人もの死者が出ることになります。奈良県においても、死者が約100人~1700人、住家全壊棟数が約7500~4万7000棟と想定されました。

大地震の発生という、せつぱ詰まった状況に立ってしまったときに、自分の命を自分で守れるかが重要になってきます。東日本大震災から2年が経とうとしている今、そういう視点で、防災について考えてみてください。

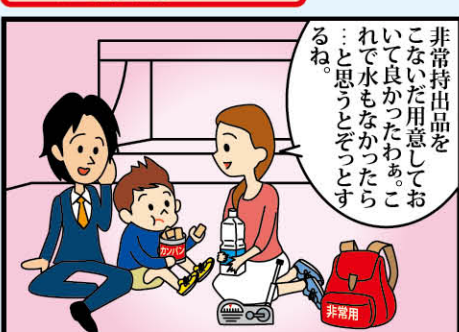
10分~数時間後



消火・救出活動に協力を!

隣近所で協力して消火や救出を。自分たちで手に負えない場合は、消防署に通報しよう!

避難所では



用意は一日、救うは一生「非常持出品」

- 大地震の場合は、持ち出せても「非常持出品」くらいです。最低でも以下のもの、家族の分を準備しておこう!
- ① 飲料水 ② 非常食(乾パン・缶詰など) ③ 携帯ラジオ(1家に1台で良い)
- 県や市町村などでも備蓄はしていますが、災害発生からしばらくは、救援物資が届かない可能性もありますので、非常持出品や備蓄品を準備しておくことが、命を救うことになる場合もあります。
- 備蓄品や預金通帳などが家の中にあっても、安全が確認されていない家には、むやみに入ってははいけません。

